

介護職員を募集しています!

●募集職種

介護職員 (病棟/施設)

※無資格・未経験OK

- 社保完備
- 交通費支給
- 完全週休2日(交代制)
- 年間休日数124日(令和6年度)
- e-ラーニング導入
- 入職祝い金制度あり



※お電話で「新吉塚つつしん見た」とお伝えください
 医療法人相生会 新吉塚病院/介護老人保健施設 光
 TEL.092-611-3331【総務課】9:00-17:00 土・日・祝除く

外来一覧表

2025年10月1日現在

診療科		月	火	水	木	金
リハビリテーション科	午前	○	○	○	○	○
	午後	○	○	○	○	○
内科	午前	○	○	○	○	○
	午後	○	○	○	○	○
整形外科	午前			○		
	午後		○			○
リウマチ科	午前		○			○
	午後	○			○	
脳神経内科	午前			○		
	午後		○			○

受付時間 午前 9:00 ~ 11:30 午後 13:00 ~ 16:30
 新吉塚病院は紹介状なしで外来受診でき特別の料金もかかりません



新吉塚病院
 介護老人保険施設 光
 すまいるプラン博多
 訪問看護ステーション吉塚

無料送迎バス運行事

便	新吉塚病院	JR吉塚駅東口	新吉塚病院
1	8:55	9:00	9:05
2	9:25	9:30	9:35
3	9:55	10:00	10:05
4	10:25	10:30	10:35
5	10:55	11:00	11:05
6	11:25	11:30	11:35
7	12:55	13:00	13:05
8	13:25	13:30	13:35
9	13:55	14:00	14:05
10	14:25	14:30	14:35
11	14:55	15:00	15:05
12	15:25	15:30	15:35
13	15:55	16:00	16:05
14	16:25	16:30	16:35
15	16:55	17:00	17:05

月~金(祝日除く) ※年末年始運休

- 道路状況により到着・発車時刻が遅延することがあります。
- 悪天候の場合、運休することがあります。
- 出発時刻になりますと発進いたします。
- 乗車中は乗務員の指示に従いご乗車ください。
- やむを得ず急ブレーキ、急停車することがあります。

病院の理念

温かさと思いやりの心でチーム医療を提供し地域に貢献します

基本方針

- 患者さんの意思を尊重し、安心していただける医療に努めます
- 患者さんにあたりハビリテーションを提供し日常生活の早期復帰を支援します
- 回復期と維持期に特化した総合的医療を提供します
- 医療・介護・福祉機関との連携を強化した地域包括医療を推進します
- 医療従事者としての自覚を持ち自己啓発に努めます



地域のみなさまと
 ともに歩み続ける
 新吉塚病院広報誌

vol. 13

2025 秋号

■スポットコラム

関節の痛み

■専門部署に聞いてみよう!

地域医療連携室を
 ご存知ですか?

■療法士が解説!

リハビリテーション医療
 自助具のご紹介

■病院インフォメーション



新吉塚病院は紹介状なしで外来受診でき特別の料金もかかりません



整形外科

柳澤 義和

yanagisawa yoshikazu

日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医、脊椎脊髄外科専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、リウマチ医、スポーツ医、運動器リハビリテーション医、身体障害者診断書・意見書作成指定医（肢体不自由）、からだ・運動器の痛み専門医療者、医学博士

スポットコラム Vol.09

関節の痛み

4月より水曜日午前中に整形外科外来を担当しております、柳澤(やなぎさわ)と申します。日頃は同じ法人の福岡みらい病院に勤務しており、主に整形外科の中でも脊椎外科を担当させて頂いております。学位取得後、広島赤十字原爆病院で脊椎外科を本格的に修行し2018年に福岡に戻って参りましたが、お陰様でみらい病院の外来患者さんが増え過ぎて予約がなかなか取れない、待ち時間が長いといったありがたいお叱りを受けることが増えてきました。そこで今年から新吉塚病院の外来で一部の外来患者さんを診させて頂くことになりました。また本院とは不思議なご縁があり大学院終了後、広島に赴任する前年に勤務した先が前身の吉塚林病院でした。当時勤務されておられたスタッフさんもおられ、和気藹々と仕事できております。

今回は脊椎外科疾患に関連する疼痛について少しお話いたします。脊椎外科疾患に関連する運動器疼痛は神経根性疼痛、椎間板由来の疼痛、椎間関節性疼痛、筋・筋膜性疼痛など多様であり、病態ごとの的確な診断と治療が求められています。腰部脊柱管狭窄症や椎間板ヘルニアでは、消炎鎮痛剤や神経障害性疼痛に有効なプレガバリン、デュロキセチンの内服に加え、選択的神経根ブロックや低侵襲手術が疼痛緩和に有効なことが多いです。近年は術後慢性疼痛を予防する目的で術中神経モニタリングや低侵襲技術の導入が進んでいます。一方、骨粗鬆性椎体骨折は高齢者に多く、保存的治療に抵抗する場合、経皮的椎体形成術(PVPやBKP、VBS)、経皮的後方固定術が適応されることがあります。特に骨折による偽関節や高度な椎体変形例では後方短縮固定やセメント補強を併用したハイブリッド手術が有効であることがあります。また再骨折予防には骨粗鬆症治療薬の適切な投与が不可欠であり、疼痛管理と骨代謝治療の一体的アプローチが重要であると考えられています。

当院でも、関節の痛みの診療を行っております。関節の痛みや四肢の痺れ、運動障害、立てなくなった、歩けなくなったなど整形外科領域に関連した症状でお困りの時は、お気軽にお尋ねください。

地域医療連携室をご存知ですか？

地域医療連携室

地域医療連携室とは、地域の他の医療機関や福祉施設と連携し、患者さんに必要な医療や支援がスムーズに受けられるようにサポートする部門となります。

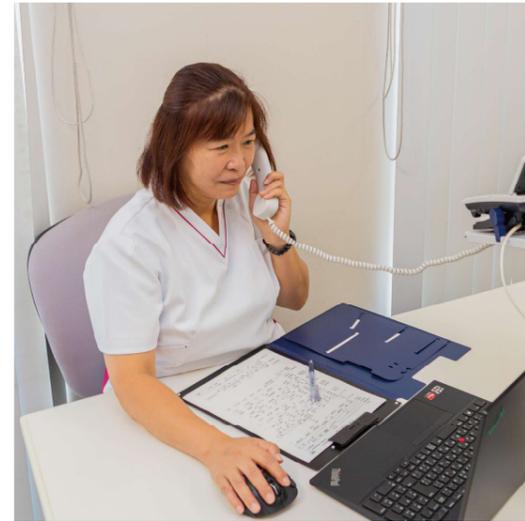
当院の地域医療連携室では、ソーシャルワーカー6名と看護師2名が在籍し、日々の業務に励んでおります。地域医療連携室の役割は多岐にわたりますが、『前方支援』と『後方支援』の大きく2つの窓口を担っております。

『前方支援』は、入院の相談窓口であり、急性期の医療機関からの転院相談、施設やご自宅などからの入院相談をお受けしております。また、当院に入院(転院)の際にはお迎えに伺えるよう調整いたします。

『後方支援』は、患者様が安心して退院していただけるように、退院先との窓口となって退院先のご案内や各種手続きをおこなっております。患者さんやご家族のご要望や目標を伺いながら多職種が連携し支援いたします。

また、病院内での業務だけでなく、地域との連携を深めるべく各方面の研修会や交流会などにも参加しております。新吉塚病院の窓口として皆さまのご相談やご連絡をお待ちしておりますのでお気軽にお声がけください。

専門部署に聞いてみよう



地域医療連携室：黒木 みき子

療法士が解説！

リハビリテーション医療

自助具のご紹介

みなさんは「自助具」という言葉を聞いたことがありますか？自助具の漢字を分けると「自分を助ける道具」と解釈することができます。事故や病気によって腕や手が麻痺したり、関節が固くなり手足が不自由になった際に日常生活の動作を自分で行えるように工夫された道具です。

例えば、脳卒中を発症し手に麻痺や筋力低下が生じると手をスムーズに動かすことが困難となり、お箸やボタン留めなどの細かい動作が苦手となります。その際に使用する自助具として「バネ箸」「ボタンエイド」というものがあります。

バネ箸は箸の上部が固定されており箸同士が離れることがないため、手の細かい動きや筋力が低下した際も食事で使用することが出来ます。



バネ箸



ボタンエイド

ボタンエイドは持ち手の先端にボタンを引っかける金具がついており、その金具をボタンを掛ける穴に入れてボタンを引っかけ再度穴に引き抜くことでボタンを留めることが出来ます。

今回紹介した自助具は二つですが、この他にも様々な自助具があり当院でも自助具を使用し入院患者様の在宅復帰を支援しています。

当院で使用している自助具についてご興味ご質問がある場合は、当院リハビリスタッフまでお気軽にご相談ください。

解説：伊東 彩美花(作業療法士)

監修：小田 太士(日本リハビリテーション医学会専門医・指導医)